

災害委員会活動報告

2004年度

災害委員会委員長 小谷俊介(千葉大学)

災害委員会運営規程

第2条（目的） 委員会は、定款第4条の目的達成のため、地震・風・水害等（以下地震等）に関し、調査・研究・発表及び建議などを行い、建築に関する学術・技術・芸術の進歩発達に寄与することを目的とする。

第3条（事業）

委員会は前条の目的を達成するため次の事業を行う。

- （1）地震等の災害および抑制に関する調査，研究
- （2）国内外の地震等の災害時における調査団派遣，情報収集などの推進および調整
- （3）地震等の災害に関する報告書の編集
- （4）前第1項から第3項に関連する，講習会，シンポジウム等成果の普及
- （5）委託研究の受託
- （6）内外の関連委員会，学協会，官公庁など関係機関との連絡調整
- （7）理事会から付託された事項
- （8）その他目的達成に必要な事業

2004年度 災害委員会 委員名簿

支部：北海道、東北、関東、東海、北陸、 近畿、中国、
四国、九州

構造委員会：応用力学、荷重、 基礎構造、木質構造、
鋼構造、RC構造、PC構造、鋼コンク
リート合成構造、シェル・空間構造、振動、
仮設構造、壁構造

材料施工委員会、建築歴史・意匠委員会、防火委員会、
建築経済委員会、環境工学委員会、建築法制委員会、
建築教育委員会、都市計画委員会、建築計画委員会、
農村計画委員会、海洋委員会、情報システム技術委員会、
文教施設委員会、地球環境委員会

2004年日本建築学会大会(北海道)記念行事 in 釧路

ささえる — まちの安全 Disaster Imagination Game

平成16年 8月 20日(金)

釧路市生涯学習センター「まなぼっと幣舞」多目的ホール

災害図上訓練 Disaster Imagination Game: 平成15年十勝沖地震では、釧路管内を始めとし、総額900億円の被害を被った。本行事では、大規模災害に繋がる地震や津波などの災害を図上で疑似体験し、来るべき次の災害に適切に対応できるよう、市民レベルまた行政レベルでの訓練をワークショップ形式で実施し、一般市民が普段見逃してきた周辺の危険認知を、行政が災害時の防災専門官としての役割認知を計る。

パネルディスカッション

- 「防災まちづくりを視点とした行政の立場から」伊東良孝(釧路市長)
- 「住民主体の防災まちづくり」亀卦川正一(釧路市連合防災推進協議会会長)
- 「防災対策研究の立場から」室崎益輝((独)消防研究所理事長)
- 「市民防災教育と安全まちづくり」佐々木貴子(北海道教育大学助教授)
- ・司会 草刈敏夫(釧路工業高等専門学校教授)

中越地震の速報会

主催: 日本建築学会 北陸支部 災害委員会

日時: 12月12日(日) 13:00~17:00

会場: 金沢工業大学 野々市キャンパス 5.101室

定員: 300人

- 地震・地震動
- 地質, 地盤の概要, 液状化・斜面崩壊による被害
- 建築物等の被害
- 歴史的建造物の被害
- 建築設備関連の被害: 赤林伸一(新潟大)
- 生活関連の被害
- 医療機関の被害: 池本敏和(金沢大)

インターネットWGのホームページ

2004年10月台風23号に関する情報

2004年 9月台風18号に関する情報

2004年10月23日新潟県中越地震に関する情報

10月23日 北陸支部に災害調査を依頼

10月23日 ホームページで災害情報

11月 2日 建築学会に調査費援助申請

12月12日 速報会(金沢工業大学)
災害調査報告書の編集

2004年12月26日スマトラ地震・津波に関する情報

12月27日 ホームページで災害情報

1月 4日 災害委員会に調査団派遣アンケート

1月14日 災害委員会に調査団派遣アンケート(再)

災害調査指針WG

(社)日本建築学会「地震災害調査活動指針」 2005年03月

1. はじめに

2. 地震災害調査活動

- 2.1 日本建築学会の地震災害調査の目的
- 2.2 建築学会の役割
- 2.3 地震災害調査の手順
- 2.4 建築学会本部の体制
- 2.5 調査の必要性の判断
- 2.6 調査体制
- 2.7 地震災害調査WG 主査の選任
- 2.8 地震災害調査WG の役割
- 2.9 経費の負担と事故責任
- 2.10 日本建築学会調査団の名称使用
- 2.11 地震災害調査WG のサポートの体制
- 2.12 平常時の活動

3. 地震災害調査における所掌分担

- 3.1 建築学会担当理事
- 3.2 災害委員会委員長
- 3.3 災害委員会担当幹事
- 3.4 災害委員会インターネットWG
- 3.5 学会事務局
- 3.6 災害委員会支部担当者
- 3.7 地震災害調査WG 主査
- 3.8 地震災害調査WG 委員
- 3.9 他機関の調査団としての参加者

4. 調査に出発する前に

- 4.1 携行器材の準備
- 4.2 調査の準備
- 4.3 国外地震の場合の事前準備
- 4.4 健康面の対策
- 4.5 建築学会への情報提供

5. 現地調査にあたって

- 5.1 情報収集の方法
- 5.2 安全対策
- 5.3 情報の記録と公開
- 5.4 報道機関への対応
- 5.5 一般市民への対応
- 5.6 国外地震の調査の留意点
- 5.7 発展途上国での技術協力

6. 現地調査から戻って

- 6.1 現地機関への礼儀
- 6.2 追加調査
- 6.3 インターネットによる情報公開
- 6.4 速報会
- 6.5 報告会と調査報告書
- 6.6 建築学会の地震災害調査速報会
- 6.7 建築学会の地震災害調査報告書

市民講座WG

2004年度設置

災害委員会の目的

- (1) 地震等の災害および抑制に関する調査・研究、
- (2) 国内外の地震等の災害時における調査団派遣・情報収集、
- (3) 上記2項に関する講習会・シンポジウム等を開催すると共に、その研究成果を一般市民に普及するなどの事業を行なっております。

市民講座WGの活動

本部主体のシンポジウムを開催
支部主体の市民講座案（2件程度）

大災害に対する災害調査体制整備および 災害に関する市民啓蒙活動実施のお願い

(社)日本建築学会支部長

災害委員会

現在、内閣府や文部科学省・地震調査研究推進本部などの発表によりますと、宮城県沖地震、東海地震、東南海地震、南海地震の発生確率が極めて高く、何時大地震が発生してもおかしくない状況にあると言われております。

このような状況において、貴支部におかれましても、大災害発生に直ちに対応できる調査体制の整備および災害を軽減するための市民啓蒙活動を実施するようにお願いいたします。